学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校

2026 年度 第 2 回学校関係者評価委員会 議事録

日 時 2026 年 10 月 16 日（金）16:30～17:30

委 員 品濃町内会関係者様、西横浜国際病院関係者様、東戸塚記念病院関係者様、亀田森の里病院関係者様、学校長、担当グループグループ長、担当グループ主幹、教務グループリーダー、教務グループサブリーダー2 名、ほか教職員 4 名

内 容

Ⅰ.校長挨拶

第２回の学校関係者評価会議、ご出席ありがとうございます。本学では２月の国家試験の結果は、OT100% PT98.6% と順調でした。PT・OT 合わせて新卒 115 名と県内で最も多くの PT・OT を輩出することができました。現在は、来年度に向けて始動しています。今週末も指定校推薦と公募制推薦入試が御座います。来年度も定員充足を目指しています。しかし、入学生の学力が低下してきており、個別の支援が欠かせません。教職員一丸となり対応していきます。本日はよろしくお願いします。

Ⅱ.各委員の自己紹介

各委員から自己紹介を行った。

Ⅲ.自己評価表（全て資料に基づき報告）

自己評価表に基づき、各担当より 2026 年度前期達成状況と 2026 年度後期課題について報告がなされた。

Ⅳ.質問・意見

重田委員：

一昨年度 1 年生の退学率が高かったが、昨年度、今年度は低下しているが、何か工夫をしたのか。

田中グループサブリーダー：

入って来た時のイメージ（スポーツに携わろうとする学生が多い）と授業とのギャップを埋めるように工夫した。1 年次前期にスポーツに携わる PT を招き特別講義を行った。その中で基礎的な学習の大切さも伝えて頂いた。

重田委員：

学生の AI 使用について知りたい。

田中グループサブリーダー：

課題レポートに使用してきている例が多い。学生には AI の活用方法について講習を行い、正しい活用方法について理解を促している。また、実習中の AI 活用については個人情報保護の観点から患者情報の入力は禁止している。

机グループサブリーダー：

OT 学科では授業の課題で AI をそのまま使用してきている。そのため PT 学科同様、使い方の指導を行っている。

AI 使用は規制するのではなく、上手に安心して利用できるようにサポートしたい。

松田委員：

高齢社会の中、若い学生が多いのは雰囲気としてよく、地域としても心強い。近年特に少子化の波を感じている。建設されているのは老人ホームばかり。子供たちが少なくなっていることに危惧を感じる。今後もボランティア等、学生の若い力を貸してほしい。

森村委員：

学生の社会性の低下について具体的に聞きたい。

杉山教職員：

近年明らかに、学生の社会性は下がっている印象。実習以前に学内から出来ないことが増えている。遅刻・無断欠席、授業中の飲食等。常識として知らないこが多い。一つ一つ指導していくところから始めている。

病院の新人職員の社会性はいかがでしょうか。

森村委員：

新人職員の社会性のレディネスも足りなくなっている。指導の在り方も変化してきており、厳しく指導出来るタイミングが減ってきている。

森村委員：

高校教職員を対象にした授業見学はどういったものだったのか。

長谷主幹：

高校教職員を対象に大学とは違う医療系養成校である本校の教育やサポート体制、PT・OT分野の理解を深めてもらうことを目的に実施した。PT・OT はリハビリを受けたことがある経験者を抜かすと、まだまだ、周知の理解としてはマイノリティー。進路指導の先生が学生に薦めるうえでもミスマッチを防げる可能性が期待できる。

森村委員：

先ずは高校の先生に知ってもらうことが大切ですね。共感します。

笠井委員：

報告から学生への手厚いサポートが感じられた。しかし、支援が手厚い分、自分から動ける学生が少なくなっている印象がある。課題を与えても、「やり方が分かりません」「出来ません」が増えてきている印象。何から手を付けてよいのか、イメージが付かず待ちの姿勢が多い印象である。

田中グループサブリーダー：

手帳を利用してスケジュールを自分で組めるように支援している。実際は、手帳をなくす、汚す、忘れる、を繰り返すものもいる。学生間で相当差が有る。良い点としては、予定を立てることで、振り返りが実施できる。学生が自分で考えて決めるようにサポートしたい。経験を積むことで改善が得られる学生も増えている。授業も教授型ではなく学生が自主的に力を伸ばせるように工夫している。

机グループサブリーダー：

忌憚のないご意見ありがとうございました。

Ⅴ．その他

次回の会議について（田中サブリーダー）：

次年度度第 1 回会議は、2027 年 4 月 16 日（金）16:30 に開催予定です。よろしくお願いいたします。

以 上

文責：武田